

老人クラブ連合会×食を考える会

2月7日、飯館村老人クラブ連合会と「食を考える会（飯館村食生活改善推進協議会）」が合同で栄養講座を開催しました。参加者は、「高齢者の食事」をテーマにした講話で、栄養バランスや食品に含まれる栄養素などについて学び、その内容を踏まえて「サバと切り昆布の炊き込みごはん」「ざくざくごまみそ風味の味噌汁」「バナナヨーグルト」を調理。交流を兼ねて料理を味わい、感想を述べ合いました。



老人クラブ連合会が交通安全教室

1月27日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村老人クラブ連合会が、交通安全教室を開催しました。南相馬警察署交通課の檜山高典交通第一係長による講話「交通事故防止について」では、参加者が真剣な表情で耳を傾け、事故の防止に役立つ知識や注意点を学びました。また、さまざまな交通状況や天候を設定できる模擬運転装置「自動車シミュレーター」の体験では、運転時の危険予測の重要性を実感していました。



自分の「名前」の由来を知ろう 飯館ライオンズクラブが企画

1月27日、いいたて希望の里学園で、飯館ライオンズクラブ主催の『親からの名前の由来について発表会』が行われました。会には、同クラブの会員も出席し、代表の菅野典雄さん（佐須）が「名前はお父さん、お母さんが一生懸命考え、想いを込めて付けたもの。その想いを知るきっかけにしてほしい」と事業の意図を語りました。

会では代表で7人の児童生徒が、自分の名前の由来に対する感想を発表し、参加した保護者も名前を付けた時のエピソードや想いを子ども達に伝えました。

弱っている人、困っている人を助ける人になりますように。

何歳になってもかっこいい人間でありますように。

「村の花」から名前をとって。

誰に対しても優しく、愛される人間になりますように。

名前に込められた想いを受けてこれから人生を歩んでいく児童生徒の成長が楽しみです。

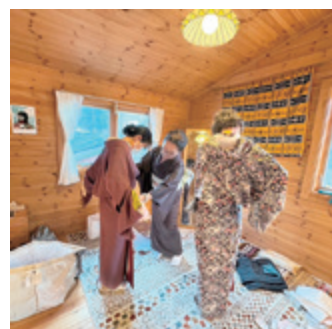


記念品の贈呈も。

COCODAで着付け&セラピスト体験

1月25日、ゲストハウスCOCODAで、福島台湾経済文化交流協会主催の『着付け&セラピスト体験授業』が開かれました。

今回が、全3回の最終回。2人の講師が客室を使って講習を行い、参加者はリラックスした雰囲気、着付けやマッサージを体験しました。また、薪ストーブの暖かさが心地よいリビングでは、ギターやキーボードの弾き語りが行われ、参加者が台湾茶を味わいながら、和やかに交流。終わり際には「また開いてほしいですね」と名残惜しそうに話していました。



地域愛を次世代に繋ぐ「支障木伐採」

昨年11月30日、佐須行政区が、「ふるさと林道堤入線」において、『令和6年度住民参加型支障木伐採作業』を実施しました。作業には避難先からも多くの人が参加。伐採資格を取得したばかりの若い人達が、経験豊かな先輩方と一緒に、道路に覆い被さる支障木を伐採しました。防護服を着用するなど安全な作業に徹しながら、共同作業のよさも味わい、復興支援道路のインターチェンジにアクセスする大切な道路をきれいにしました。



人権擁護委員が人権啓発活動

2月16日、人権擁護委員の皆さんが、交流センター「ふれ愛館」で啓発活動を行いました。同館ではこの日、「いいたて村芸能発表祭」が開かれており（芸能発表祭の様子はP16）、委員の皆さんは来場者に啓発グッズを手渡し、人権への理解を呼びかけました。人権擁護委員は、人権相談を受けて問題の解決を手伝ったり、法務局職員と協力して人権侵害から被害者を救済したりと、日頃から地域住民の人権を守る活動を担っています。



「あぶくまもち」のおこわおむすび

令和6年飯館村産のもち米「あぶくまもち」を使った「おこわおむすび」が、コンビニエンスストア「セブン-イレブン」で販売されています。3年目となる今年のラインアップは「味おこわ」と「舞茸入り五目おこわ」の2種類で、販売エリアは全県に拡大。完売にて終了する限定販売の商品です。

1月下旬の発売日には、「道の駅までい館店」の移動販売車が、昼休みに合わせて村役場で販売。職員らが列を作って買い求め、村自慢のもち米を味わいました。

